

■遠山菜穂美 (音楽学)

ここ数年《ゴルトベルク変奏曲》の新録音が相次いでいるが、ご紹介するのはロンドンを拠点に活動するピアニスト、藤澤玲子のゴルトベルクである。気を銜わないすっきりとした気品ある演奏で、ノンレガートのタッチから明晰な音が立ち上がる。複数の声部もバランスよく響き、曲の柱を成すカノンの対位法的な声部の絡みも、色で塗り分けたように明瞭に聴き分けられる。装飾はひかえめで、それよりもバッハの旋律そのものを丁寧に表現することに関心が向けられているとみえる。温かな語り口で旋律を歌わせ心を穏やかにさせてくれる。海外で日本の作品も積極的に紹介しているもようで、武満徹がメシヤンの追憶に捧げた《雨の樹素描Ⅱ》も収められている。音色の美しい変化や音の余韻から深い味わいが生まれている。

Bach, J.S./Takemitsu



J.S.バッハ:ゴルトベルク変奏曲、武満徹:雨の樹素描Ⅱ～オリヴィエ・メシヤンの追憶に

藤澤玲子(p)

〈録音:2017年8月〉

[Quartz©OTZ2130]